

九州・アジア/中国ビジネス研究会

第87回研究会開催案内

日時：平成26年4月24日(木)18:30 — 20:30

場所：エルガーラ・オフィス棟 6階601-2号室 久留米大学福岡サテライト教室

福岡・中央区天神1-4-2 大丸エルガーラ東館 TEL : 092-737-3111

(エルガーラ・オフィス棟は天神・大丸エルガーラ東館と国体道路沿いで隣接するビルです)

講師：東洋証券株式会社 常務執行役員情報本部長

細井 靖(ほそい やすし) 氏

略歴：1979年東京大学経済学部卒業。同年日本興業銀行入行。1981年の北京留学を契機に中国政治経済分析、中国政府関係企業向け融資業務、在中国外資企業向け融資業務、対中進出企業支援業務などに従事。2003年みずほコーポレート銀行北京支店長、2005年日中投資促進機構事務局次長（出向）を経て、2007年10月には東洋証券株式会社に移り、証券本部参与、2008年4月アジア本部長、同6月執行役員兼アジア本部長、2009年執行役員情報本部長。2013年常務執行役員法人本部長を経て、2014年4月より現職。一方、中国との関係では2005年より北京市投資促進局招商顧問兼務のほか、北京4回、大連1回、合計13年の駐在を含め、合計30年間、中国関連ビジネスに従事。最近の論文では、2013年3月発行の蒼蒼社「中国情報源 2013-2014年版」(21世紀中国総研編)に「中国経済の中期的展望について」を寄稿。

テーマ：証券アナリストから見た「二年目を迎えた習近平/李克強体制の評価と課題」

概要：中国情勢については、メディアを通じて多くの情報が氾濫し、関連書籍も多数、手にすることができる。しかしながら、こうした情報は発信者の事情によってずいぶんとトーンが違い、何が本当のところなのか、見極めにくいところがある。しかし、多くの報道に共通していることは、飛ぶ鳥を落とすかに見えた中国経済の成長も、広がる格差の問題やPM2.5問題に代表される環境破壊問題など、多くの深刻な問題に直面しており、今後の成長に黄色信号が灯っている、という点であろう。加えて一昨年尖閣問題に端を発した日中関係の緊張は、昨年秋の中国による防空識別圏設置問題、年末の安倍総理による靖国参拝などにより泥沼状態と言ってよい状況にあり、関係正常化への道筋すら見つけられない異常な事態になっている。こうした中、関係改善に向けてまずは中国の政治経済をどう捉えていくべきかにつき、中国で長く暮らしてきた講師の目から見識を述べて頂き、加えて証券アナリストの立場から、2年目を迎えた習近平-李克強体制は多くの政治・経済・社会の課題に対しどのように対応しており、今後はどうしようとしているのか、につき、昨年の三中全会や本年3月の全人代での公表文書などをもとに分析を加え、対中進出・投資をどのように考えていけば良いのか、などにつき、問題提起を試みる。

会費：参加ご希望の方は以下に申込み、登録の上、当日会場入り口にて参加費1000円をお支払いください。

申込み先：(株)アジアソリューション・中山芳美 宛

電話：092-741-9338 E-mail：yoshimi@asol.ne.jp

九州・アジア/中国ビジネス研究会

主催：一般社団法人九州・アジアビジネス連携協議会

共催：近畿大学産業理工学部・アジアビジネス研究会